

ひかり野

Saga University Library Bulletin

No.38

August 2014



目次

CONTENTS

吉村昭『戦艦武蔵』 館長	1
医学部附属図書館と私の研究の関わり 副館長.....	2
学生の読書力向上のために.....	3
「ラーニング・コモンズ」にリニューアルしました	4
学生選書（さらりーず）の活動.....	6
Library Lovers' キャンペーン 2013 の活動.....	6
ビブリオバトル首都決戦 2013 学内予選会を開催.....	7
オープンキャンパスでの本の展示やイベント.....	8
インターンシップ、仕事体験の受入.....	8
貴重書の電子化.....	9
除籍図書の無償譲渡.....	9
平成 25 年度図書館月間を開催	10
講演会「大学における学術情報基盤と図書館の機能強化」を開催	10
本館 1 階エントランスでの展示設備の利用について	11
防災訓練を実施.....	11
館内の施設整備.....	12
受入資料紹介.....	13
図書館統計.....	14
人事異動.....	18
図書館日誌（行事・会議・研修等）	18
貴重書紹介	



吉村昭『戦艦武蔵』

館長 富田義典

私は就任三か月の新米館長である。館長に指名されたときの気持ちはつぎのようであった。自分の体の何分の一かは本（ホン）によって育まれてきた。そろそろ、そのホンに年貢を納めよという天からの声がかかったのだろう、と。

ここでホンと言っているのは、紙の本以上でも以下でもない。そんなわけで、今日の図書館は紙の本だけを念頭においていればよいというつもりは毛頭ないが、ここではホンに関するひとつの思い出を記させていただくことにする。

私にはとりたてて傍らにおいておくホンはない。が、強く印象に残る、できるならばこんな本を書いてみたいと思う本は少なくない。そのひとつに表題に掲げた吉村の本がある。この『戦艦武蔵』は、大学院生になったころ読んだ。研究者の端くれにはなりたいたいと思っており、そのためになにか参考になるものはないかと探していた。当時は歴史研究を志向していたので、歴史もので、比較的史実に忠実に書かれているものを物色していた。そのようなとき、手に取ったのがこの本であった。

読んだところ、とにかく面白かった。また、いわば書きつづりに、いいようもないかつこよさを感じた。というのは、この作品が読んだものにあたえる印象の一つに、戦争の不条理さというものがある。ところがこの本は、戦争は人が死ぬ、女性が悲しむ、それらの生々しい場面を描写することによりそれらを説明するのではなく、日常のなにげない変化により異常さをあぶり出す手法がとられており、そこに感心した。一例を取り出すならば、(a) 昭和12年九州一円の漁業に異変が起こった。棕櫚でできた網が手に入らなくなった。(b) 同じころ長崎で戦艦武蔵の建造がはじまった。この(a)と(b)とが因果の関係にあることをわざわざ説明しない。“九州の漁業に異変が起こった”と書き出して、読む者に、これが「戦艦武蔵」の書き出しなのか？と思わせておいて、そのあとは戦況や風土などにしばらくは筆をめぐらせる。そして、“ある日突如長崎にだれも見たこともない大きさの棕櫚の帆の建造物が出現した”、と書く。(a)と(b)とは、棕櫚が巨大戦艦の建造を隠すためのおおいであるということ、つながってくる。建造が始まると、長崎の街全体に異様な雰囲気漂うようになった。目の前に不気味な建造物が見えているのに、何が起きているのかは考えない、触れてはいけない。

そのほか『戦艦武蔵』では、武蔵の建造に携わった人々の労苦を、苦労した、苦労したという技術者や労働者の声や仕事ぶりから描くのではなく、一少年工の日常と、彼が引き起こした出来事が大事件へと発展するその顛末によって、時代の不条理を描いているところなども印象にのこる。

この本にかぎらず吉村の作品は、総じて、この本体を描かず、周辺を描くことにより、本題やその本質を浮かび上がらせる書き方になっている。当時の私は、そこに書き手の手練れを見出し、感心したのだと思う。むしろ、それは研究者にあつてはとりあえずは禁じ手なのであるが、歴史研究を志していた自分にとって、ひとつの憧れともなるものを見つけた気がした。学問的というより、当時の言葉でいえばパトスの勇気を得ることができた。その勢いを駆って、イギリス産業革命期をテーマとする修士論文を書いた。

残念ながら、その後の私の研究人生は、歴史研究には向くことがなく、現状分析に30年余を費やすこととなった。

吉村の作品はその後も愛読し、とくに好きなのは、『長英逃亡』、『破獄』である。両書とも、逃げる人を描いた作品である。また、『彦九郎山河』には私の先祖の親類も一行だけ登場し、忘れがたい作品になっている。



医学部附属図書館と 私の研究の関わり

副館長 熊本 栄一

私が佐賀大学医学部（当時、佐賀医科大学）に赴任した時とほぼ同じ頃、附属図書館が完成した。今から34年前のことである。この間、研究における図書館の利用の仕方は大きく変わった。この変化について、私の場合を述べてみたい。

34年前、パソコンは普及していなかった。当時、研究の動向を知るのに利用されていたのが、数百の学術雑誌の論文タイトルが記載されている Current Contents という紙媒体であり、図書館が毎週購入していた。研究室の事務官が神経生理学分野の研究に関係する箇所をコピーし、研究室のスタッフに回覧していた。興味のある論文が見つくと各人がチェックを入れ、回覧終了後、事務官がそれらの論文のタイトルをタイプしていた。それをもとに図書館から雑誌を借り出し、論文をコピーして読んでいた。図書館は当時から2階建てで、1階のカウンターの西側手前に新着の欧文雑誌、その奥に少し古くなったもの、2階の北側東にさらに古いものが置かれていた。

今では、自分の部屋のパソコンから PubMed などにアクセスし、興味のある研究のキーワードを入力すると、関連する一連の論文を知ることができる。Elsevier の Science Direct など佐賀大学が契約している電子ジャーナルに掲載されている論文の場合、タイトルをクリックするとダウンロードできる。また、論文が受理された時に著者自身でお金を支払うスタイルのオープンアクセスジャーナルの場合、無料で論文をダウンロードできる。ダウンロードできない雑誌の場合には、図書館のホームページにアクセスして学外文献複写を依頼すればコピーを入手できる。以前は、この依頼用紙に手書して論文を取り寄せていた。インターネットの普及のおかげで論文の検索と入手が大変容易になった。

さらに、自分の論文に誰が興味を持っているかを知りたいければ、Google Scholar にアクセスすればよい。同様な情報は佐賀大学が契約している Elsevier の Scopus でも得られる。この情報は論文作成の手助けになる。また、このような電子情報を利用することで論文に多く引用される雑誌がわかる。雑誌の引用頻度は Impact Factor として毎年発表されており、雑誌のある種のランク付けになる。これは図書館ホームページで閲覧可能であり、投稿雑誌を決める時の参考になる。

古い論文については、電子化されているためダウンロードできるものもあるが、多くの場合、図書館でコピーしている。34年も経てば、当然、館内にある紙媒体の雑誌の蔵書量が増える。そのため、年が経つにつれて、1階の西の北側の壁などに雑誌が置かれるようになり、書架を可動式にし、さらに、その数を増やすことにより、雑誌を置くスペースが確保されていった。昔、1階西の南側のソファを利用して雑誌を見ていたものであるが、そのスペースも今では縮小された。

今後、雑誌の電子化が一層進むことが予想される。図書館は研究者が電子ジャーナルを使いやすい環境を整えることが求められる一方、紙媒体についても利点があることから、両者のバランスを取ることが必要であろう。

学生の読書力向上のために

佐賀大学の学生1人当たりの年間貸出冊数は、22年3月時点で3.9冊という大変低い数字でした。この状況を改善するために、「あげる佐賀48」というプロジェクトを開始し、いろいろな施策を行ってきました。目標は、学生1人当たりの年間貸出冊数を8冊に倍増することです。

1. 25年度の施策

新刊図書の重点的収集、収容スペースの拡大、開館時間の最適化、貸出条件の緩和、図書の除籍、広報の改善、学生選書委員会の活動推進、学生選書コーナー充実、など各種の施策を継続して進めてきましたが、25年度は、従来の取組に加え、学生参加型読書奨励企画としてビブリオバトル(知的書評合戦)を開催しました。

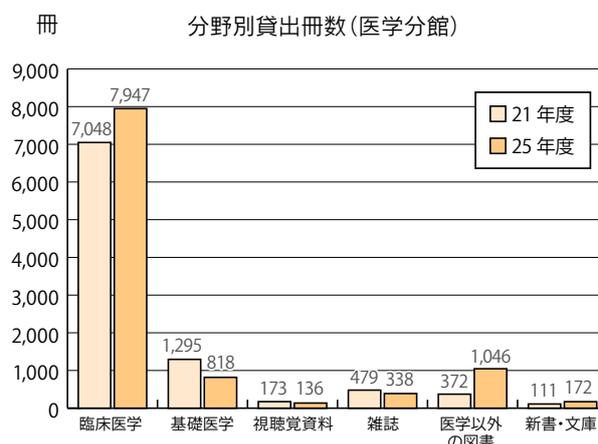
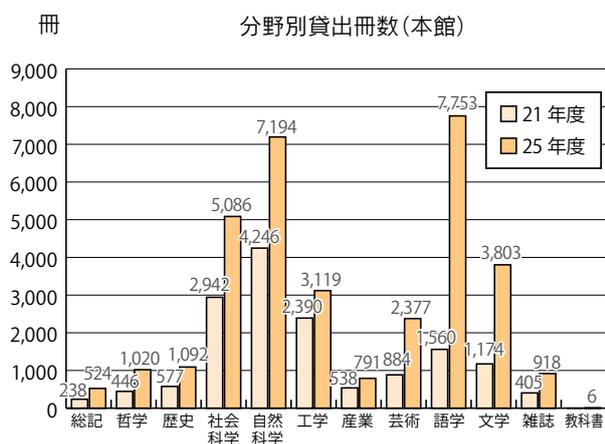
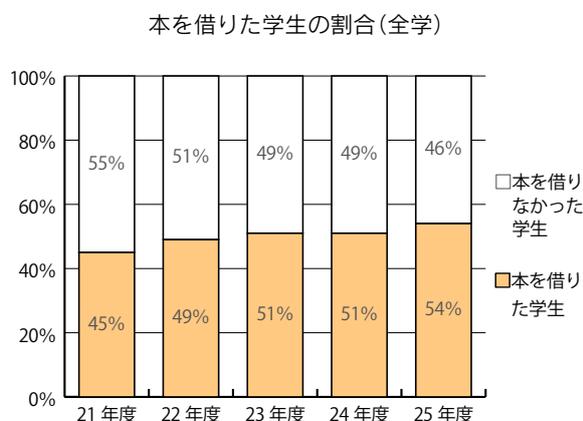
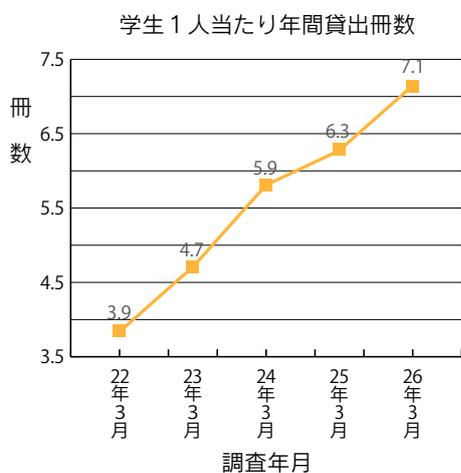
また、全学生を対象とした英語能力試験 (TOEIC-IP) が開始されたことを受け、関連参考書及び英語多読本の整備強化を図りました。

2. 成果と課題

学生一人当たりの年間貸出冊数は順調に伸びて、25年度末には7.1冊になりました。

分野別貸出冊数を見ると、ほぼ全分野で貸出が伸びています。本館の語学分野の貸出冊数は前年度比1.4倍、プロジェクト開始直前の21年度と比較すると約5倍で、飛躍的増加となりました。

本を借りたことがある学生の割合は、25年度に54%となりました。今後も、学生が図書館から気軽に本を借りることができるよう、取り組みを続けます。



「ラーニング・コモンズ」にリニューアルしました ～行きたくなる図書館をめざし、まだまだ進化します～

平成26年3月、本館は自習室を、医学分館は多目的学習室をラーニング・コモンズに一部リニューアルし、能動的学修(アクティブ・ラーニング)を支援するためのスペースを用意しました。現在、大学の授業スタイルは知識獲得型からアクティブ・ラーニングへの転換が求められており、平成26年4月からのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れたインターフェース科目の本格開講に備えて準備をしました。リニューアルしたスペースには、可動式の机と椅子を整備しましたので、グループ学習の人数に合わせて組み合わせて使うことができます。このスペースでは会話や話し合いも可能とし、ホワイトボードを使つてのディスカッションや学習発表、グループワーク形式の授業も行うことができます⁽¹⁾。

また、7月に来館学生を対象にしたアンケート(図書館の学修環境について重要度・満足度調査)を実施しましたが、その分析結果によれば、私語、座席数の問題等が、改善の必要な最優先事項としてあがりました。今回のリニューアルは、アンケート結果もふまえたものになっています。私語への対応策としては、今回整備したラーニング・コモンズを会話しながら学習できるスペース(動)とし、静かに勉強できるスペース(静)との住み分けを行い、様々な学習スタイルに応じた空間を提供できるようにしました。座席数についても新たに机と椅子を配置して座席数増を実現し、本館では6人用大机に仕切りをつけるなどして、大机で学習しても個人の空間が保てるよう工夫をしました⁽²⁾。エントランスには、可動式の机と椅子の他に1人用ソファを置き、新聞等もゆっくりと見ていただくことができるようにしました⁽³⁾。

26年度は、全学教育機構の教員と連携して学生にラーニング・コモンズを広報するとともに、ラーニング・コモンズの拡充・再整備について全学教育機構等の教員との意見交換や学生ヒアリングを行い、パソコンの移動、本館3階AV資料視聴室のグループワーク向けルームへの模様替えを決定しました。今年度末までにはこれらを実現する予定です。

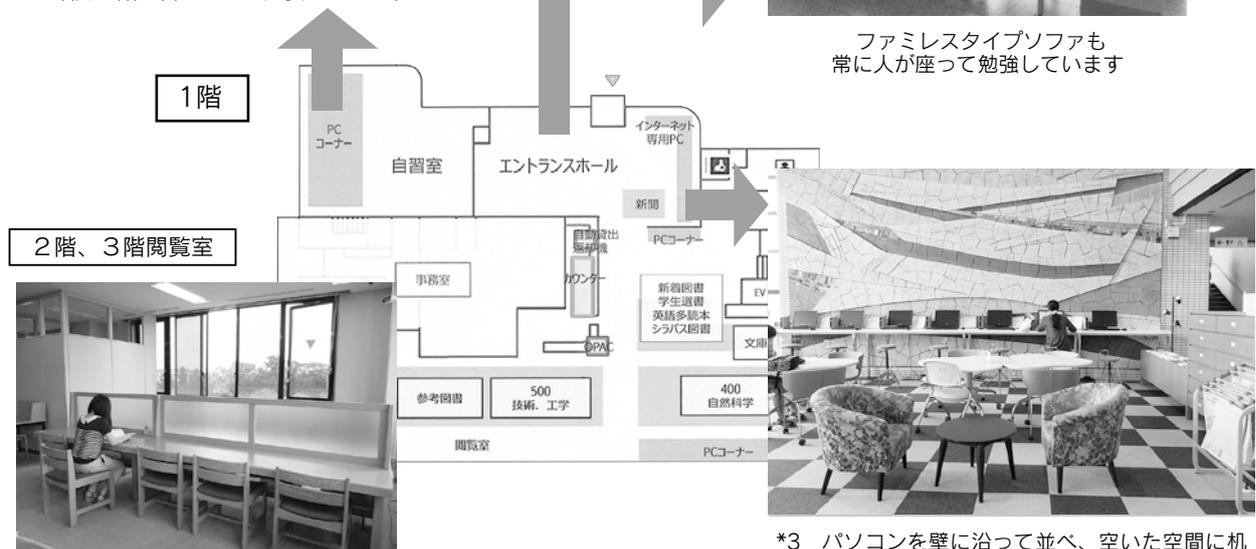
本 館



*1 活発に話し合いながら勉強しています



ファミレストাইプソファも
常に人が座って勉強しています



2階、3階閲覧室



*2 大机に仕切りをつけて、個人のスペースを確保して、学習しやすくしました



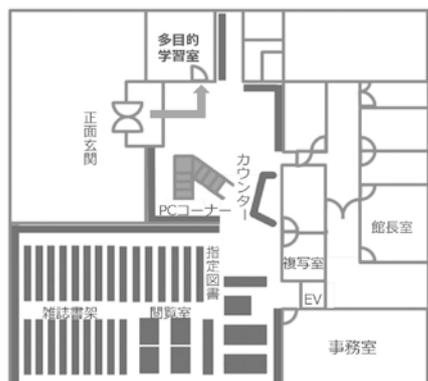
*3 パソコンを壁に沿って並べ、空いた空間に机椅子を置き、座席数を増やしました

医学分館

医学分館の多目的学習室はもともと新聞や雑誌などを置いた空間でした。

このスペースに可動式椅子と机を12ずつとホワイトボード2枚を設置し、さらに館内との通用口にガラスドアを設置して、内部で会話をしても声が外に漏れないよう工夫しました。

座席が可動式なのでグループでの学習の際には人数に合わせて席を組み換えることができます。また館内無線LANも利用可能なため、グループで話し合いながらノートパソコンで資料を作成するといった作業も容易にできます。



ICT環境

本館では11月より、電子書籍リーダーとしてはもちろん、インターネット上での調べ物もできるスマートデバイス「iPad」の貸出(試行)をはじめました。これからの学生には「専門知識が活用できること」や「チームコミュニケーション力」が求められるようになってきたため、これらの能力を向上させるためのサポート環境として導入したものです。ささやかな疑問は手軽に持ち運べるiPadで解決し、「知識を活用することに集中して取り組めるようにすること」が狙いです。

現在は、4台のiPadを使って貸出を行っています。利用できるアプリや貸出手順などに改善を加えた後、医学分館でも貸出をはじめます。

平成26年3月には無線LAN環境の改善も行い、持込みのノートパソコンからも手軽に学内専用のインターネットサービスが利用できるようになりました。

今後も学生が求める学習スタイルを把握し、図書館空間の持つ社会的機能にも注目した、施設・設備の充実を図っていきます。



学生選書(さらりーず)の活動

読書奨励企画として、昨年に引き続き、今年も学生参加型の活動である学生選書(愛称:さらりーず)を行いました。メンバーは総勢22名で、各学部だけでなく、院生、留学生と幅広く集まりました。「毎年楽しいから」ということで、複数年連続参加の学生もおり人気の企画となっています。

メインの活動である学生選書ツアーは、1回目は福岡のジュンク堂書店、2回目は佐賀の紀伊國屋書店で行いました。初めて参加した学生は、とまどいながらも選書時間として設けた3時間のうちに徐々に慣れ、また経験者は慣れた手つきで図書館に置きたい本を選書していました。

後日、ミーティングで図書館の蔵書としてふさわしいかを審議し、その結果、すでに蔵書がある分を除く約400冊の購入が決定しました。

今回は選書ツアーと併せて行った図書館見学にも力を入れました。福岡では、BIZCOLI(ビズコリ)という九州経済調査協会の会員制図書館を訪れ、普段なかなか入ることができない施設を見ることができました。また、佐賀では、全国的に話題になっている武雄市図書館も見学しました。他にも、ブルックリンパーラー博多というブックカフェで、参加者全員で昼食をとったりなど新しい試みも実施しました。学生からは「こんな形の図書館もあるんだ」「本のレイアウトが面白かった」などの声がかかれ、多様な図書館に刺激を受けたようです。

選書された図書は、本館の学生選書コーナー、医学分館の特設コーナーにそれぞれ配架され、学生自身がディスプレイをし目を引く場所になっています。これからも学生目線のアイデアを大切に、学生が利用したくなるような図書館作りにつながるよう、この企画を続けていこうと思います。



Library Lovers'キャンペーン 2013の活動

Library Lovers'キャンペーンは、2010年から開催している九州地区の国公立大学・高専の図書館の協同イベントです。専門分野を超えた興味を感じてほしい、図書館の魅力をもっと知ってもらいたいという思いから、年々参加大学を増やしながら開催しています。

4回目を迎えた2013年のテーマは、「収穫の秋 読書の芋」。教員や学生から「おすすめの本のコメント」を募集、教員からのコメントを「芋の葉(栄養分)」、学生からのコメントを「芋」に見立て、立派な芋畑に成長させていくというイベントを開催しました。

開催期間は約1ヶ月。本学では農学部附属アグリ創生研究教育センターにご協賛いただき、「おすすめの本のコメント」を書いてくださった方には、本物のサツマイモをプレゼントするというサプライズを行いました。本という「知識の世界」と、食べ物という「日常生活」とのつながりを感じてもらうことで、「本や知識は想像以上に身近なものである」ことを実感してもらうことが本企画の狙いです。

今後も趣向を凝らしたイベントを開催し、大学図書館の魅力を発信していきます。



医学分館



本館



食をテーマにした展示コーナー



いただいたサツマイモ

ビブリオバトル首都決戦2013学内予選会を開催

10月22日(火)、ビブリオバトル首都決戦2013(東京)に向けての学内予選会を開催しました。この年、九州地区では、首都決戦への出場をかけた予選会が12の大学や書店で開催されました。佐賀大学でも、学生の読書離れに対する解決策のひとつと考え、今回初めての試みとして行いました。

ビブリオバトルとは、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「書評合戦」で、ビブリオバトラー(発表者)たちがおすすめ本を持ち合い、1人5分の持ち時間で書評した後、バトラーと観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定するというものです(「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」<http://www.bibliobattle.jp/>より引用)。学内予選会でチャンプ本(1位)に選ばれれば、地区決戦ブロック大会(福岡)への出場権が得られ、さらにそこで勝ち進むことで、首都決戦への出場の道が開けることになります。

予選会当日は、バトラー7人が自分たちのお気に入りの本についてプレゼンテーションを行いました。「留学先で出会った本」「辛いときに母親が渡してくれた詩集」「外国人からみた日本人についての本」など、紹介された本はバトラーそれぞれの思い入れのあるものであり、それらをレジュメなどの手持資料なしで、自分の言葉だけで勝負しました。続いての観客とのディスカッションも大いに盛り上がり、90分間の熱いバトルが終了しました。

チャンプ本は『遺伝子オンで生きる—こころの持ち方であなたのDNAは変わる!』に決定し、地区決戦ブロック大会へ出場を果たしました。

今回ビブリオバトルを実施したことで、学生にとっては、本の面白さを伝えるために内容を深く読み込む必要があり、そしていかにそれを分かりやすく人にアピールするかという、読書力やプレゼン力の向上につながったと思われます。また図書館にとっても、バトラーと観客のコミュニケーションが臨場感のあるイベントとなり、大変魅力的な企画となりました。

このように、学生と図書館双方にとってビブリオバトルの効果は大きく、大変有効な企画であると実感しています。これからも積極的にビブリオバトルを開催していく予定です。



ビブリオバトル学内予選会 会場の様子

オープンキャンパスでの本の展示やイベント

8月8日(木)、佐賀大学のオープンキャンパスが開催され、本館・医学分館どちらも多くの高校生で賑わいました。

本館では、大学新生が読みたくなるような新生活ガイド本の展示を行いました。展示本の前で立ち止まり、手にとってくれる方がたくさんいらっしゃいました。また、オリジナルのしおりやブックカバーはすぐなくなってしまったほど人気でした。

医学分館では、ミニイベントとして、『コースターになる2WAY図書館オリジナルしおり』『オリジナルうちわ作り』を実施しました。毎年好評をいただき、このときも多くの高校生や保護者の方が参加してくださり、佐賀大学に来校した記念に、みなさん1点1点、丁寧に丹精込めて作成されていました。

オープンキャンパスは、参加者にとっては大学の図書館の雰囲気を味わえるよい機会であり、また大学にとっては入学希望者獲得のための重要なイベントであるので、今後も力を入れていきたいと思ひます。



本館 新生活ガイド本の展示



医学分館 しおりやうちわ作成中の様子

インターンシップ、仕事体験の受入

○インターンシップを下記のとおり受け入れました。

平成25年9月2日(月)～17日(火)

2名：筑波大学生、国際医療福祉大学図書館職員

実習内容

図書館業務全般(管理業務、資料組織業務、サービス業務等)

○佐賀県立ろう学校の仕事体験を下記のとおり受け入れました。

平成26年1月15日(水) 小学6年生 1名

実習内容

館内清掃、書架整理、図書の背ラベル貼り



貴重書の電子化

平成25年度は市場直次郎コレクションの中から、和歌・俳諧に分類される以下21点の典籍を電子化し、佐賀大学附属図書館「とんぼの眼」において公開いたしました。

千鳥のあと	俳諧初発伝	つはものつくし
興風集	俳諧拾遺	吉野鏡
平野国臣歌集	俳諧金毛伝	弘化改元嘉永元戊申年月次集
明治英名百詠撰	菊の十歌仙	嘉永五子のとし月次集
絵入歌合	俳諧点取帖	芭蕉袖草紙
ひとりごと	俳諧点取帖	発句集
発句指南書・俳諧の格	葛しか集	誹風末摘花通解

「とんぼの眼」貴重書コレクションでは、和歌・俳諧のほか、扇面、小説、日記・紀行などの資料も公開しています。本学コレクションを通して、近世の思想や文学、佐賀に栄えた文化の世界をお楽しみいただければ幸いです。ぜひ「とんぼの眼」貴重書コレクション<<http://www.dl.saga-u.ac.jp/OgiNabesima/>>でご鑑賞ください。



明治英名百詠撰

除籍図書は無償譲渡

附属図書館では、平成25年度も除籍した図書の、再利用を目的とした無償譲渡を行いました。本館の約3千6百冊の除籍した図書の中から、本学の学生・教職員、一般利用者の方に先着順でお持ち帰りいただきました。

今後も計画的に図書の除籍を行い、無償譲渡を実施しますので、どうぞご利用ください。



平成25年度図書館月間を開催

附属図書館では、生涯学習の拠点としてサービスを提供するという目的のもと、毎年11月を図書館月間として催しを行っています。平成25年度は、「幅広い読書のために ～人に語る、人を通して出会う～」というテーマのもとに、近年大学生の間で普及しつつある知的書評合戦「ビブリオバトル」でお薦め本を発表するメリットについての講演会を開催しました。

また講演テーマに関連した、附属図書館開催のビブリオバトル首都決戦(全国大会)に向けた大学予選会での発表本、図書館が開催したミニビブリオバトルでのお薦め本の展示を行いました。

講演

日時：11月11日(月) 14:00～15:30
会場：佐賀大学附属図書館 本館4階会議室
講演者：佐賀大学工学系研究科准教授 中山功一氏
演題：「ビブリオバトルの勧め ～社会で役立つ“プレゼン能力”を学ぼう～」

展示

期間：11月1日(金)～29日(金)
会場：佐賀大学附属図書館
本館1階エントランスホール



講演風景



お薦め本の展示風景

講演会「大学における学術情報基盤と図書館の機能強化」を開催

—第27回佐賀大学FD・SDフォーラム

(主催：佐賀大学全学教育機構高等教育開発室 協賛：佐賀大学附属図書館)

平成26年3月17日(月)に、第27回佐賀大学FD・SDフォーラムとして、講師に文部科学省研究振興局の長澤公洋学術基盤整備室長を迎え、「大学における学術情報基盤と図書館の機能強化 —主体的な学習への転換と図書館のラーニング・コモンズ—」と題した講演会を開催しました。

長澤氏は、大学の学士教育改革として、アクティブ・ラーニングへの転換が図られつつあること、その推進には、学生の授業時間外における自主的学修を増加させるとともに、ICTの活用により教育の質的向上を図る必要があります。そのための場所・ツールとなる学術情報基盤の整備が極めて重要であることを説かれました。また、ラーニング・コモンズの先進事例を紹介され、更なる学修環境充実のために推進すべき取組について語られました。

学内教職員をはじめ、近隣の大学図書館職員など約40名が熱心に聴講しました。



講演する長澤公洋学術基盤整備室長



講演会場風景

本館1階エントランスでの展示設備の利用について

図書館設備の有効活用の一つとして、本館1階エントランスのスペース貸出を開始しました。まず、5月11日(土)～17日(金)の期間、佐賀大学写真部の写真展を行いました。これは、写真部に新入生向け広報誌「さりり」の撮影協力をしてもらっていることがあり、図書館から打診をし、実現したものです。この展示に足を運んだ方が多く、また写真部の学生に大変好評だったこともあり、その後、大学祭の日程に合わせて11月1日(金)～10日(日)にも二回目の写真展を行いました。

また、写真部の展示の様子を見ていた美術部の学生が、図書館のスペースを利用できることを知って申し込みに訪れ、12月9日(月)～13日(金)の期間で展示会を実施しました。

学生にとっては無料でスペースを借りることができるという点、そして図書館にとっては来館者増につながるという点があり、両方にメリットを感じることができました。

これからも、展示設備の利用について広報に力を入れ、たくさんの方に利用してほしいと願っています。



防災訓練を実施

附属図書館本館では、9月9日(月)の午後に2回、図上訓練形式での防災訓練を行いました。館内設置の防災設備とその操作法、火災発生時等取るべき行動、日常的な備え等について確認を行い、最後に参加職員全員で館内を巡回して防災設備の設置場所を現場で確認しました。

医学分館でも、9月12日(木)の午前に、図上訓練形式での防災訓練を行いました。消火器の使用法や防犯器具の操作方法についての動画を視聴し、その後参加職員・アルバイト職員全員で館内を巡回して、防災防犯設備やAED等の設置場所を確認しました。

本館、医学分館とも例年とは違ったかたちでの防災訓練になりましたが、これまでのシナリオ型実地訓練では得ることのできない成果を得ることができました。来年度以降は、実地訓練の場合はシナリオ型訓練だけでなくブラインド型訓練も実施する、図上訓練も積極的に取り入れる等の工夫を行い、職員の防災意識を高めると共に災害時に的確に対応できる組織づくりを行っていきたいと思います。



《本館》火災発生時取るべき行動を確認する職員



《医学分館》防犯器具の操作方法を学ぶ職員・アルバイト学生

館内の施設整備

本館・医学分館では、利用者の方に快適・安全に図書館を使っただけのように、利用環境の整備・充実を行いました。

1. 本館1階の什器・Web閲覧用端末等を新たに増設及び入れ替えを行いました。
2. 本館2階・3階の閲覧テーブルの改修を行いました。
3. 本館の無線LAN用アクセスポイントの増設工事を行いました。
4. 本館・医学分館の防犯カメラを新たに増設及び入れ替えを行いました。
5. 本館エレベーターの操作盤を車椅子の方が利用しやすいよう改修工事を行いました。
6. 医学分館1階の新聞・雑誌室の什器等を新たに増設及び入れ替えを行いました。

利用者の方には、学習、情報収集にリニューアルした図書館をさらに活用していただきたいと思います。引き続き、利用環境の整備を進めていきます。



受入資料紹介

学生用図書

平成25年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入了しました。

教員推薦図書 1,519冊 学生希望図書 421冊 図書館推薦図書 1,318冊 継続購入図書 407冊

寄贈図書

○大学関係者著作図書

- ・文化教育学部教授 松山郁夫
[单著]発達障害のある子どもがすくすく育つ保育：保育園・幼稚園で楽しく遊ぼう！ / 松山郁夫著
中央法規出版 他1点
- ・文化教育学部教授 田中右紀
[共著]古唐津図案集 = Kogaratsu design patterns / 田中右紀、瀬戸口朗子編集 文部科学省
科学技術戦略推進費地域再生人材創出拠点の形成戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成
佐賀大学「ひと・もの作り唐津」プロジェクト 他2点
- ・経済学部教授 金子晋右
[单著]世界大不況と環境危機：日本再生と百億人の未来 / 金子晋右著 論創社 他2点
- ・元文化教育学部教授 上瀧泰嗣
[单著]上瀧泰嗣画集 / 上瀧泰嗣自選展実行委員会編集 他1点
- ・元教育学部助教授 神原正明
[单著]天国と地獄：キリスト教からよむ世界の終焉 / 神原正明著 講談社 他2点

○その他

- ・文化教育学部教授 早瀬博範
[カウンターナラティブから語るアメリカ文学 / 新田玲子編集 音羽書房鶴見書店
- ・文化教育学部准教授 中村聡
新・環境思想論：二十一世紀型エコロジーのすすめ / 海上知明著 荒地出版社
- ・農学部准教授 上野大介
矢野トヨコかく生きたり：あるカネミ油症被害者の歩み / 矢野トヨコ追悼文集刊行会編 アット
ワークス
- ・元文化教育学部教授 藤田勝良
琉球方言の研究 / 仲宗根政善著 新泉社 他3点
- ・元監事 川上義幸
ピースボート水球一周記：三大洋101日間の旅 / 祇園全祿著 海鳥社 他1点
- ・峰松正輝
鍋島直朝の生涯：鹿島藩三代藩主 / 峰松正輝著 [峰松正輝] 他1点
- ・清水雅代
幕末佐賀科学技術史研究 幕末佐賀研究会
- ・中村久実
Do you believe in Santa Claus?：道草を楽しむ英語 the editorial of the New York Sun /
くるみもち著 アルク
- ・佐保兆基
ななさんたんし = Nana san tansi / サホヨンモト著 佐保兆基
- ・豊福英二
佐賀ん路を歩く：歴史の宝庫 さがの歴史と文化遺産を歩く会
- ・末富千樞
海音寺潮五郎未刊作品集1 海音寺潮五郎記念館 他3点

(敬称略)

図書館統計

〈平成26（2014）年3月31日現在〉

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

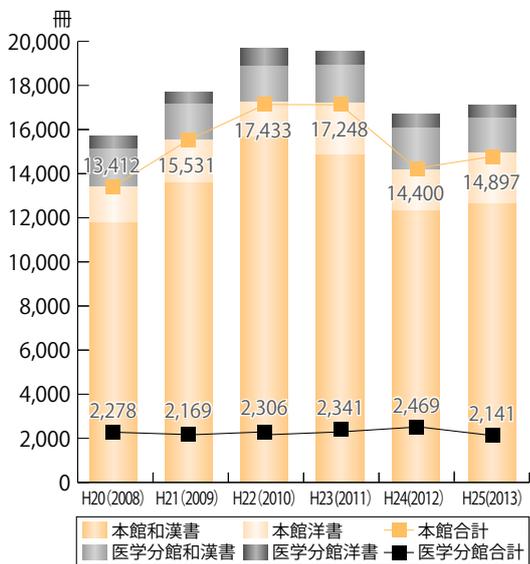
	和漢書	洋書	合計
本館	416,543	176,443	592,986
医学分館	68,917	46,385	115,302
合計	485,460	222,828	708,288

雑誌所蔵種類数

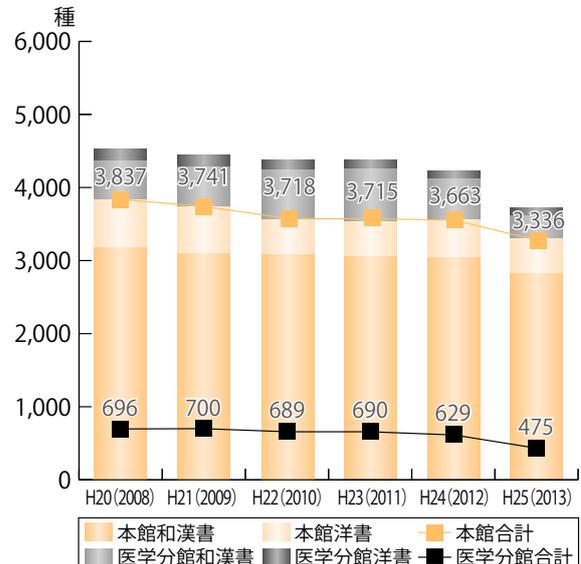
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,522	2,972	9,494
医学分館	1,233	1,117	2,350
合計	7,755	4,089	11,844

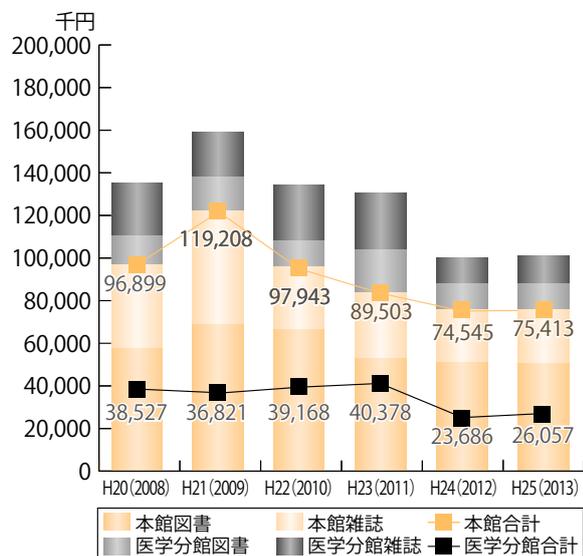
図書受入冊数



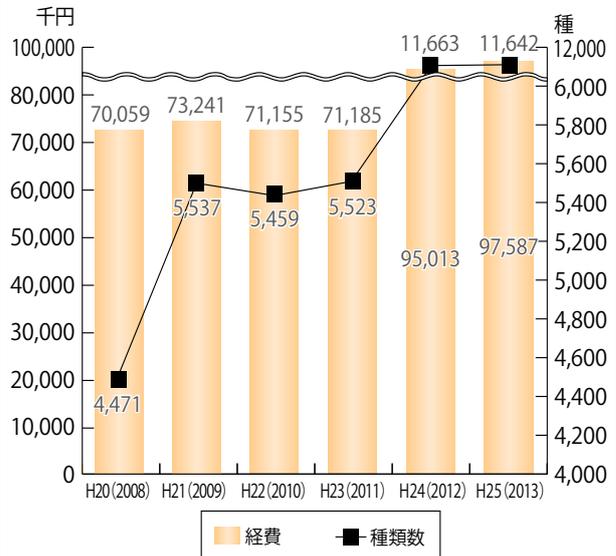
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



(注)平成24年度からアグリゲータ(Cinii、メディカルオンライン、Academic Search Premier、JSTOR)の電子ジャーナル及び外国雑誌契約で購読形態が電子ジャーナル分を加算している。

サービス統計

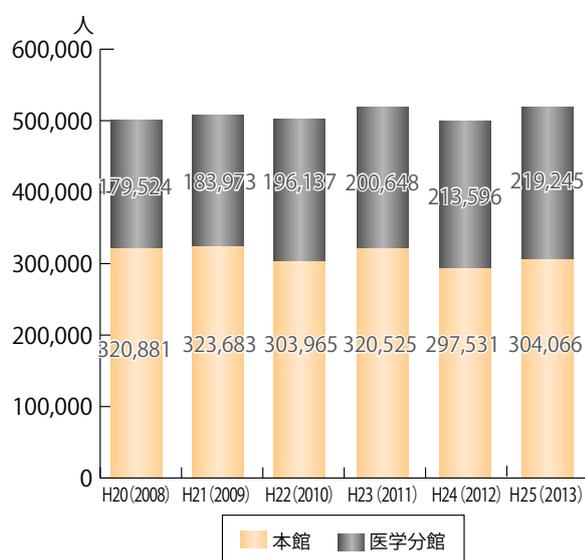
開館日数

(日) 利用対象者数 (平成26 (2014)年5月1日現在) (人)

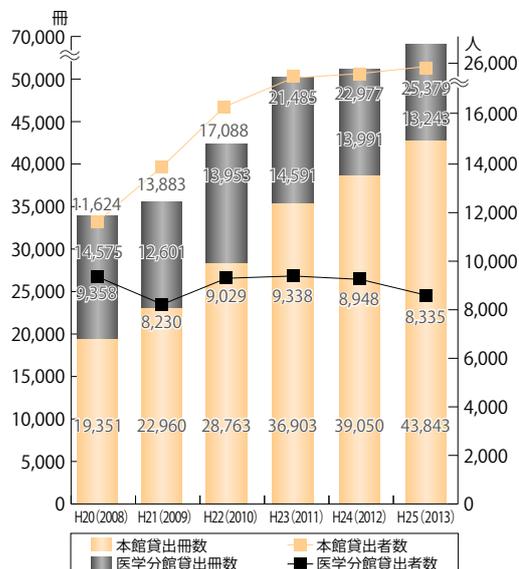
	本館	医学分館
平日	234	241
土・日・祝日	110	102
合計	344	343

	本館	医学分館	合計
学生	6,019	1,099	7,118
教職員	1,148	1,485	2,633
合計	7,167	2,584	9,751

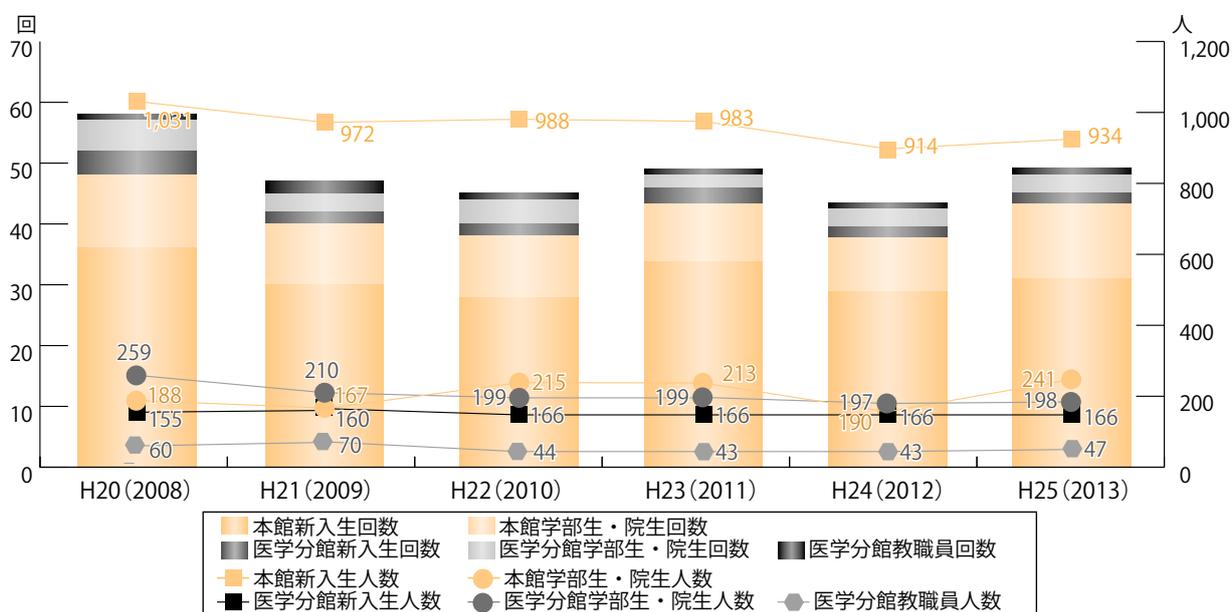
入館者数



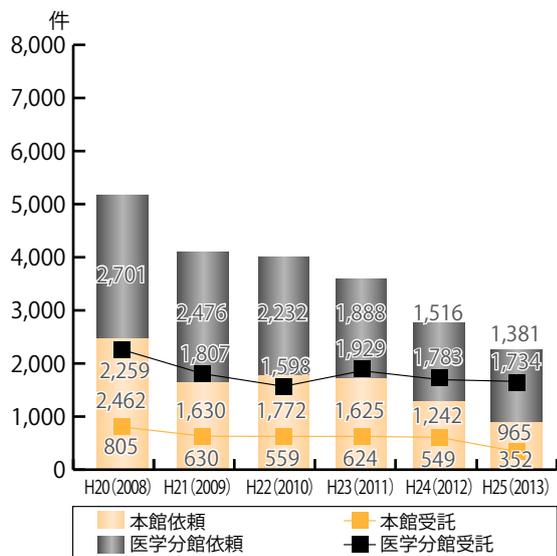
貸出冊数と貸出者数



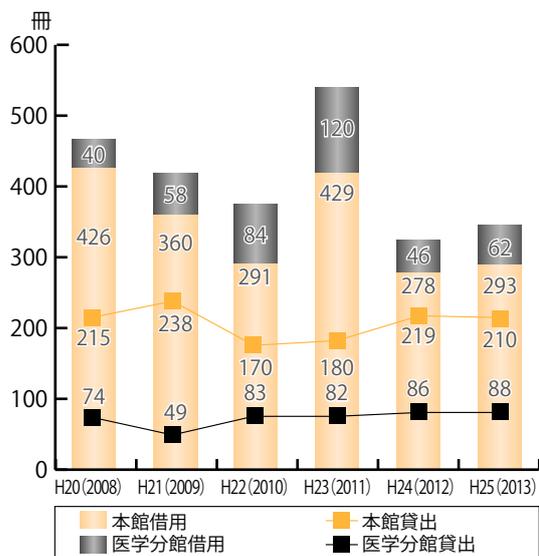
オリエンテーション(図書館案内)



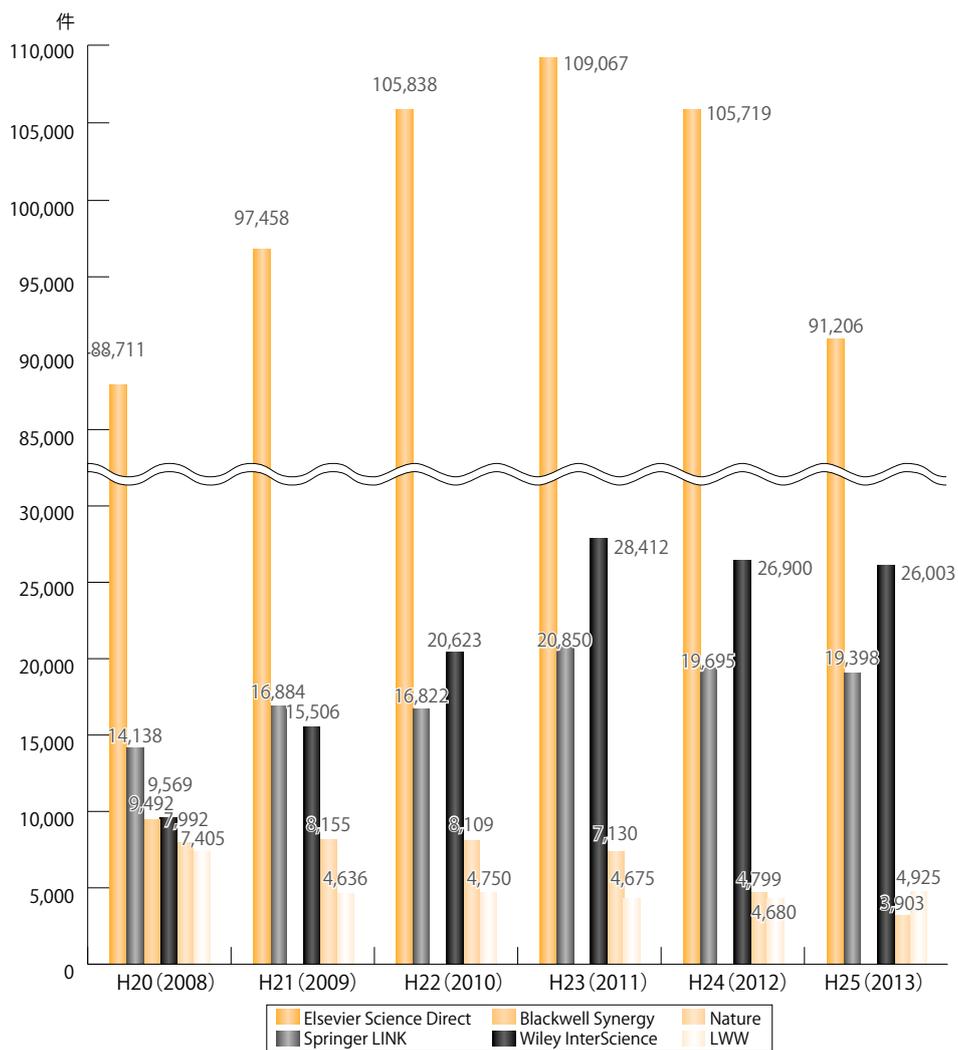
文献複写件数



相互貸借冊数



電子ジャーナル利用件数



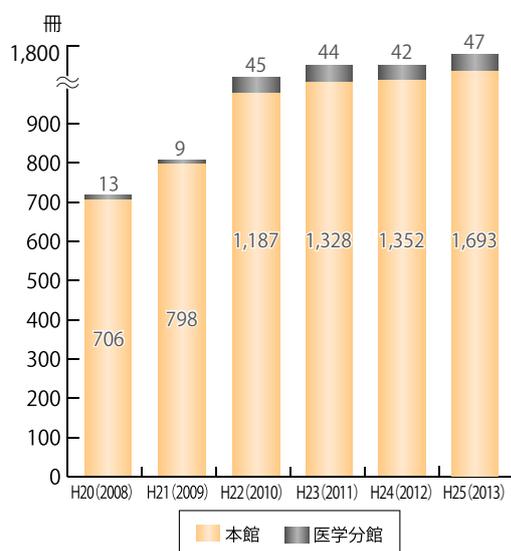
・ H21 (2009) Blackwell は Wiley に統合

文献データベース利用件数

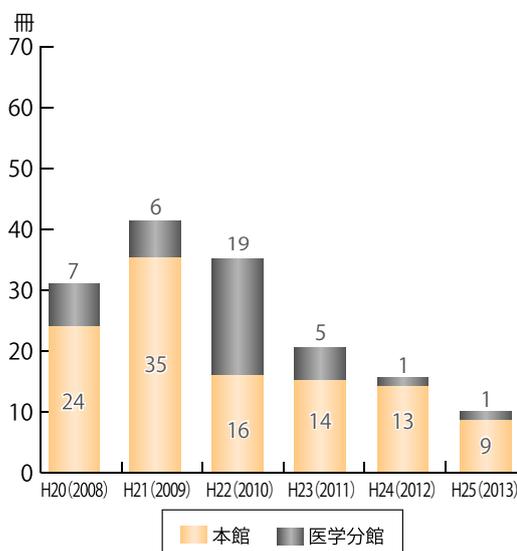
年度	CiNii	間蔵	ヨミダス歴史館	ジャパンレッジ	ブックプラス	日経テレコン	日経BP記事索引	医中誌Web
H20 (2008)	14,145 (42,702)	759	/	/	/	(263,106)	(3,430)	(235,026)
H21 (2009)	12,750 (72,456)	928	/	/	/	(216,239)	(2,824)	(255,142)
H22 (2010)	21,901 (86,606)	1,240	(5,627)	398	609 (814)	(267,335)	(2,274)	17,172 (258,413)
H23 (2011)	21,149 (85,559)	1,126	(9,924)	300	520 (646)	(690,657)	(2,861)	17,509 (59,105)
H24 (2012)	15,689 (66,710)	1,023	(7,675)	155	146 (302)	(688,304)	(4,329)	17,308 (51,252)
H25 (2013)	14,620 (74,540)	743	(1,230)	155	84 (61)	(248,024)	(10,245)	16,634 (55,738)
年度	SciFinder	Academic Search Premier	Ovid	UpTo Date	Stat!Ref	Clinical Evidence	Cinahl	Scopus
H20 (2008)	4,159	/	12,684 (23,447)	3,197	/	/	/	/
H21 (2009)	3,859	/	7,348	2,533	/	50 (55)	233 (780)	/
H22 (2010)	3,049	3,726	9,586 (20,880)	2,889	171	39 (62)	432 (1,647)	/
H23 (2011)	5,055	2,984	9,302 (22,413)	2,550	41	37 (89)	277 (1,306)	/
H24 (2012)	4,370	3,055	5,964 (11,207)	2,295	12	38 (92)	73 (264)	11,031 (35,832)
H25 (2013)	4,724	2,291	9,437 (21,541)	2,866	17	36 (88)	130 (260)	11,164 (34,083)

*括弧内は検索回数または本文利用回数 *斜線箇所は統計データなし

一般市民への貸出冊数



県内公共図書館への貸出冊数



人事異動

(平成25年4月2日～平成26年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	現職	異動内容
勤務命令	25.7.1	永安 樹	情報図書館課司書(利用サービス主)	情報図書館課司書(図書・雑誌主)
〃	〃	中村 麻里子	図書・雑誌主	医学分館主
併任	26.4.1	富田 義典	附属図書館長	
〃	〃	熊本 栄一	附属図書館副館長	

図書館日誌(行事・会議・研修等)

平成25年

- 4月 1日 図書館情報誌「さらり」6号発行
- 4月18日 第43回九州地区国立大学図書館協会総会
(当番館:福岡教育大学学術情報センター 於:博多都ホテル)
- 4月19日 第64回九州地区大学図書館協議会総会
(当番館:福岡教育大学学術情報センター 於:博多都ホテル)
- 5月20日 平成25年度第1回目録システム講演会(図書コース)の講師補助等
(於:国立情報学研究所)
- 5月24日 平成25年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(理事館:九州共立大学 於:九州共立大学)
- 5月30日 丸善・図書館セミナー
(於:福岡ビル)
- 5月31日 平成25年度第1回附属図書館選書専門委員会
「平成25年度附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 6月 4日 平成25年度第1回附属図書館運営委員会
「平成24年度決算及び平成25年度予算(案)について」他
- 6月 6日 オープンアクセス・サミット2013
(於:学術総合セミナー)
- 6月20日 第60回国立大学図書館協会総会
～21日 第8回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー
(当番館:名古屋大学 於:キャッスルプラザ)
- 6月24日 平成25年度佐賀大学中堅職員ステップアップ研修
～25日 (於:菱の実会館多目的室)

- 7月 4日 平成25年度第1回附属図書館医学分館運営委員会
「平成24年度決算及び平成25年度予算(案)について」他
- 7月 11日 平成25年度佐賀大学係長研修
～12日 (於:菱の実会館多目的室)
- 7月 17日 平成25年度第2回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
～24日 「本館学生用図書(学科推薦図書)の購入について」
- 7月 17日 第9回学術情報セミナー2013 In 福岡
(於:九州大学)
- 7月 19日 平成25年度第2回附属図書館運営委員会(メール会議)
～25日 「図書の除籍について」
- 7月23日 OCWとオープンエデュケーションに関する講演会
(於:九州大学)
- 7月24日 平成25年度佐賀大学幹部職員(課長級)研修
(於:菱の実会館多目的室)
- 7月24日 平成25年度学術情報ウェブサービス担当者研修会
～26日 (於:九州大学)
- 7月27日 平成25年度九州地区国立大学附属図書館ソフトバレーボール大会
(当番館:佐賀大学 於:佐賀大学体育館)
- 7月31日 図書館報「ひかり野」37号発行
- 8月 6日 平成25年度第3回附属図書館運営委員会(メール会議)
～12日 「図書の除籍について」
- 8月 8日 Library Lovers' キャンペーン 2013ワーキンググループ会議
～ 9日 (於:九州大学)
- 8月20日 平成25年度佐賀県大学図書館協議会総会
(当番館:西九州大学短期大学部附属図書館 於:西九州大学短期大学部附属図書館)
- 8月20日 平成25年度北部地区研究会目録講習会(中級)
(於:九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館)
- 8月20日 佐賀大学情報化要員養成研修(HTML&CSS基礎研修(これでOK!ホームページ作成の基本))
(於:総合情報基盤センター)
- 8月28日 第1回学生選書ツアー
(於:福岡市 BIZCOLI・ブルックリンパーラー・ジュンク堂福岡店)
- 9月 2日 インターンシップ・職場職員研修受入
～17日 筑波大学・国際医療福祉大学
- 9月 3日 第2回学生選書ツアー
(於:武雄市図書館・ゆめタウン佐賀)
- 9月 9日 図書館本館防災訓練実施
- 9月 10日 平成25年度図書館等職員著作権実務講習会
～13日 (於:京都大学 吉田キャンパス)
- 9月 10日 平成25年度九州地区国立大学法人等係長研修
～13日 (於:九州工業大学)
- 9月 11日 平成25年目録システム地域講習会(図書コース・長崎大会場) 講師
～13日 (於:長崎大学)
- 9月 12日 図書館医学分館防災訓練実施

- 9月30日
～10月7日 平成25年度第2回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)
「図書館2階のパソコンの講義利用について」他
- 10月1日 熊本大学附属図書館リニューアルオープン記念式典
(於:熊本大学)
- 10月8日 平成25年度佐賀大学接遇・マナー研修
(於:菱の実会館多目的室)
- 10月10日
～11日 平成25年度九州地区国立大学法人等テーマ別研修
(於:九州大学)
- 10月17日 平成25年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:九州龍谷短期大学 於:九州龍谷短期大学)
- 10月18日 第61回九州地区医学図書館協議会総会
(当番館:鹿児島大学 於:ブルーウェーブイン鹿児島)
- 10月22日 労務担当者講習会
(於:小城市)
- 10月24日
～25日 平成25年度佐賀大学副課長級研修
(於:菱の実会館多目的室)
- 10月28日
～11月1日 平成25年度九州地区国立大学会計事務研修
(於:大学会館)
- 10月28日
～11月5日 平成25年度第3回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)
「CBT模擬試験実施のキャンセルについて」他
- 10月31日
～11月1日 平成25年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議
(当番館:福岡教育大学 於:福岡教育大学)
- 11月11日 図書館月間講演会
(於:附属図書館4F会議室)
講演会テーマ 「ビブリオバトルの勧めー社会で役立つ “プレゼン能力を学ぼう”」
- 11月11日
～15日 平成25年度第3回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
「本館学生用図書(教員推薦図書)の購入について」
- 11月19日
～20日 平成25年度佐賀大学中堅職員ステップアップ研修
(於:菱の実会館多目的室)
- 11月19日
～20日 「ラーニングコモンズの明日を紡ぐ」への参加及びラーニングコモンズ
先進大学等への情報収集ディスカバリーシステムに関する意見交換
(於:新潟大学・創価大学等)
- 11月20日 平成25年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議
(於:九州大学)
- 11月28日
～29日 ラーニングコモンズ及びディスカバリーシステムに関する意見交換
(於:和歌山大学・立命館大学・京都文教大学)
- 12月9日
～12日 平成25年度第4回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)
「教育研究用推薦図書の購入について」他
- 12月18日
～20日 大学ポータル ラーニングコモンズに関する情報収集及び意見交換
(於:三重大学・名古屋学院大学等)
- 12月24日
～27日 平成25年度第1回附属図書館評価専門委員会(メール会議)
「平成24年度佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告書について」他

平成 26 年

- 1月15日 学外実習
佐賀県立ろう学校 1名
- 1月23日 平成25年度第4回附属図書館運営委員会(メール会議)
~29日 「図書の除籍について」
- 2月 7日 佐賀大学附属図書館自己点検・評価に関わる外部評価
(於:佐賀大学)
- 2月14日 九州大学附属図書館ワークショップ
(於:九州大学)
- 2月18日 平成25年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:西九州大学 於:西九州大学)
- 2月19日 平成25年度第2回附属図書館評価専門委員会(メール会議)
「附属図書館の自己点検・評価に関わる学外者検証について」
- 2月21日 平成25年度第5回附属図書館運営委員会(メール会議)
「附属図書館評価専門委員会の報告について」
- 2月28日 平成25年度第5回附属図書館医学分館運営委員会
「医学部分館1階の新聞雑誌室のリニューアル後の新名称について」他
- 3月17日 平成25年度第6回附属図書館運営委員会(メール会議)
~24日 「大学紀要雑誌の受け入れ基準の見直しについて」他
- 3月19日 平成25年度第7回附属図書館運営委員会(メール会議)
~25日 データベース ProQuest Dialog 大学紀要雑誌の受け入れ基準の見直しについて」
- 3月19日 平成25年度第4回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
~26日 「平成26年度読書奨励企画活動計画について」

貴重書紹介

小城鍋島文庫「戊辰戦争戦況図」



解説

慶応4年(明治元年)5月、東北・北陸の諸藩は「奥羽越列藩同盟」を結成し、明治新政府に反旗を翻します。しかし勤王思想が強かった久保田(秋田)藩は、仙台で孤立した新政府の奥羽鎮撫隊総督九条道孝らを受け入れ、7月に同盟を離脱します。

これに対し同盟側は、久保田藩への攻撃を開始します。久保田藩には佐賀藩など新政府の軍勢が入り、一時は新政府側が優位に立ちます。しかし庄内藩(山形県鶴岡市周辺)が反攻を開始し、一時は久保田城下近くまで侵入します。さらに8月には盛岡藩が、久保田藩北部の要衝である大館を占拠しました。

こうした状況下、佐賀藩の支藩小城藩の兵は久保田藩救援のため、8月22日に船川(秋田県男鹿市)に上陸、9月6日に大館を奪回します。その後仙台藩・会津藩・庄内藩・盛岡藩が相次いで新政府に降伏し、東北地方における「戊辰戦争」は終了しました。

本史料は、久保田藩領の地図に付箋で戦況が説明されています。大館のところには、「肥前四小隊・小城一手・秋田一手」「八月廿七日ヨリ進撃、九月六日マテ八戦勝利」と、佐賀・小城藩兵の奮闘が記されています。

(地域学歴史文化研究センター 伊藤昭弘)